



どのような未来を目指すための事業か

土砂災害リスクを軽減するため

防護柵と法枠をつくりました

地元の声

・がけ崩れによる被害が不安なため、対策をしてほしい。（地元住民）

事業前

◆斜面が急であるため、大雨等でがけ崩れが発生するおそれがありました。



事業前の状況

事業後

◆防護柵と法枠をつくることにより、落石や崩落した土砂を受け止め、がけ崩れによる被害のリスクを軽減しました。



事業後の状況

事業の概要

- 事業箇所：藤岡市坂原
- 事業内容：防護柵工 延長55m・法枠工
- 事業期間：令和元年度～令和5年度

※法枠（のりわく）とは、コンクリートなどで格子状の枠を設けて、斜面の風化、浸食、崩落などを防止するものです。



事業の進捗状況（令和5年度完了）

今、何をしているか

令和5年度に、本事業は完了となりました。

